

令和5年度病害虫発生予報第1号

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
麦類	うどんこ病	並	並
	赤かび病	並	やや多
ばれいしょ	疫病	並	並
	アブラムシ類	並	並
	ジャガイモガ	並	並
トマト	黄化葉巻病	並	並
	灰色かび病	並	並
	コナジラミ類（防除情報第1号）	やや多	やや多
いちご （本圃）	灰色かび病	並	並
	ハダニ類	並	並
	アザミウマ類	並	並
かんきつ	ミカンハダニ	並	並
果樹共通	カメムシ類	やや少	やや少
茶	カンザワハダニ	少	少
	チャノキイロアザミウマ	少	少
	クワシロカイガラムシ	並	並
	（防除情報第2号）		

【発生予報】

本文の（ ）内は平年値

麦類

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 4月前期の巡回調査（大麦9筆、小麦15筆）の結果、発生を認めなかった（大麦 発生を認めない、小麦 発病茎率0.0%、発生圃場率0.8%）。

イ 4月3半旬の県予察圃場（無防除、諫早市）調査の結果、発生を認めなかった（大麦 発生を認めない。小麦 過去10か年平均 5.5%）。

2. 赤かび病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月前期の巡回調査（大麦9筆、小麦15筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

イ 4月3半旬の県予察圃場（無防除、諫早市）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

ウ 感染時期（小麦：開花期、大麦：蒴殻抽出期）に感染に好適な気象条件で推移した。

エ 向こう1か月の気温は高く、降水量は並または多い見込みであり本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤の種類によっては、麦種ごとに農薬使用基準が異なる場合があるので、使用にあたっては収穫前日数及び使用回数に特に注意する。

ばれいしょ

1. 疫病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査(24筆)の結果、発生を認めなかった(過去10か年平均 発病株率0.2%、発生圃場率1.3%)。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 4月前期の巡回調査(24筆)の結果、寄生株率は3.3%(5.7%)、発生圃場率は45.3%(40.1%)であった。

イ 黄色水盤トラップ(雲仙市：中山間営農研究室調査)では、トラップ設置(3月上旬)から成虫の誘殺が確認されているが、平年(過去5か年平均)より少ない状況で推移している。

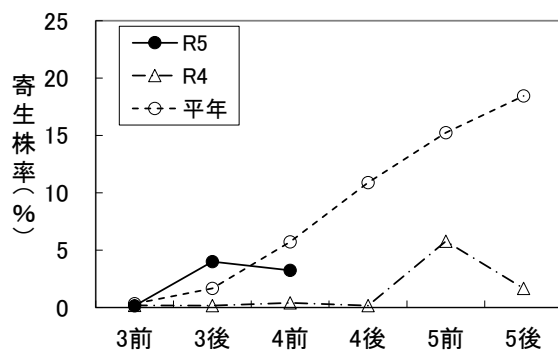


図 アブラムシ類寄生株率の推移

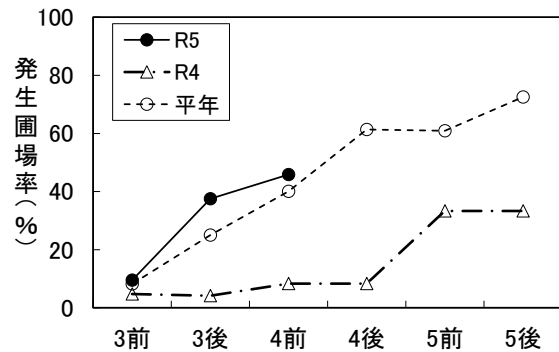


図 アブラムシ類発生圃場率の推移

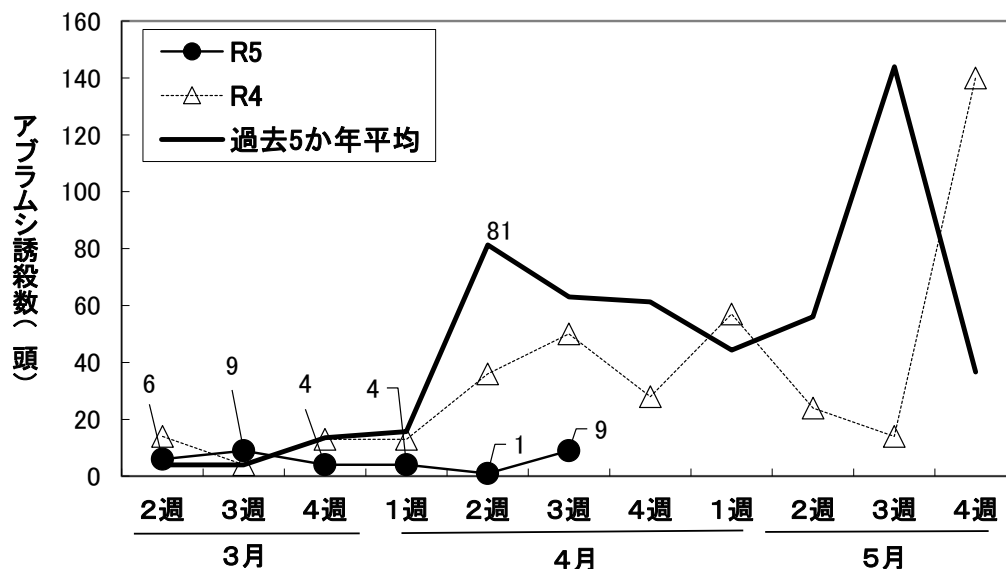


図 黄色水盤トラップへのアブラムシ誘殺数(雲仙市愛野)

3. ジャガイモガ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査（24筆）の結果、発生を認めなかった（被害株率0.0%、発生圃場率2.1%）。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査（9筆）の結果、発病株率は0.3%（0.3%）、発生圃場率は33.3%（15.6%）であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査（9筆）の結果、発病果率は0.2%（0.2%）、発生圃場率は44.4%（15.6%）であった。発病葉率は0.9%（1.1%）、発生圃場率は22.2%（29.2%）であった。

3. コナジラミ類

令和5年4月19日付け**病害虫発生予察防除情報第1号**による。

いちご

1. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

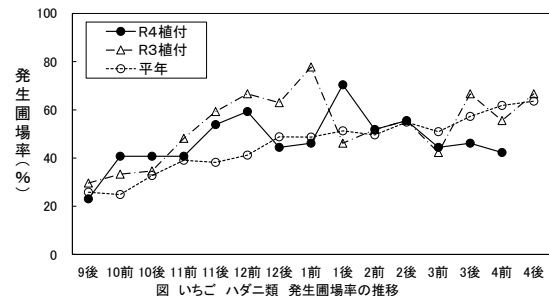
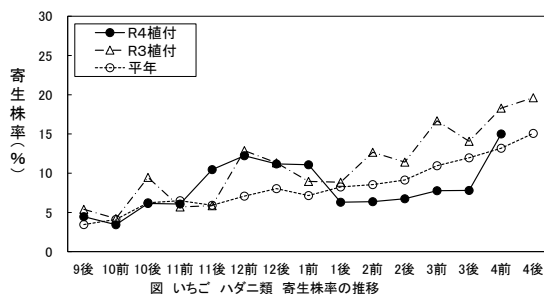
4月前期の巡回調査（26筆）の結果、発病果率は0.2%（0.2%）、発生圃場率は23.1%（20.1%）であった。

2. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査（26筆）の結果、寄生株率は15.0%（13.2%）、発生圃場率は42.3%（61.8%）であった。



(3) 防除上注意すべき事項

ア 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が下葉の裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

イ すでに多発している圃場では1回の散布のみでは、薬剤の付着ムラ等で効果が不十分になる場合があるので効果を確認しながら数回散布する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和5年長崎県病害虫防除基準

P 2 1 4～2 1 7の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

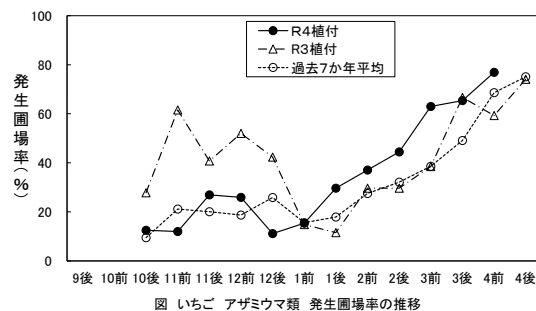
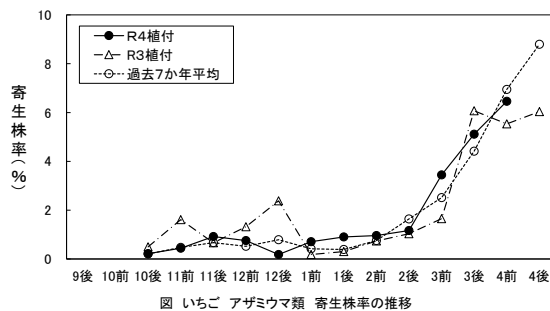
エ 天敵を導入している圃場では、天敵に影響の少ない薬剤を散布する。ただし、ハダニが多発し、今後、天敵による防除効果が見込めない圃場では、天敵への影響は考慮せず効果の高い薬剤を散布する。

3. アザミウマ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査（26筆）の結果、寄生花率は6.5%（過去7か年平均6.8%）、発生圃場率は76.9%（同69.5%）で、一部多発圃場が認められた。



(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生が多くなってからでは防除が困難となるため、早期発見・早期防除に努める。

イ 本虫は薬剤が到達しにくい蕾や花、がく等に寄生しているため、丁寧に薬剤散布を行い薬液がかかるようにする。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和5年長崎県病害虫防除基準 P 2 1 4～2 1 7の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

エ ミツバチへの影響日数を確認してから薬剤選定、散布を行う。

かんきつ

1. ミカンハダニ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率は3.9%（3.4%）、発生圃場率は27.8%（30.2%）であり、一部多発圃場が見られた。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 1月に実施したチャバネアオカメムシの越冬量調査の結果、常緑広葉樹林の落葉中の虫数は平年より少なかった（0.17頭/m²、平年 0.33頭/m²）。

イ 県予察圃場（諫早市）に設置したフェロモントラップにおいて、4月3半旬に誘殺が認められた。

(3) 防除上注意すべき事項

本種を含む果樹カメムシ類の果樹園への飛来時期及び飛来数は地域や園によって異なるので、園地をよく観察し、発生が確認される場合は防除を行う。

茶

1. カンザワハダニ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査（15筆）の結果、発生を認めなかった（寄生葉率2.1%、発生圃場率37.1%）。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査（15筆）の結果、たたき落とし虫数（5回×4か所当たり）は0.5頭（2.2頭）、発生圃場率は26.7%（60.4%）であった。

3. クワシロカイガラムシ

令和5年4月19日付け**病害虫発生予察防除情報第2号**による。

